

先進的技術やデータを活用したスマートシティの実証調査(毛呂山町スマートシティ協議会)

■都市課題

<ニュータウンの公共交通問題>
新市街地と既成市街地を結ぶ**公共交通ネットワーク構築**の必要性

■解決方策

<自動運転技術の社会実装>
・実装に向けた**低コスト化**
・地域住民の**社会的受容性醸成**

■KPI

<自家用車依存率の減少>
2030年(2021年比):76%⇒60%
ニュータウンの交通利便性の改善

■実証実験の概要・目的

自動運転バスが地方都市において持続可能な手段となるには、実装に向けたコストの低減や、自動運転の実現に向けて地域で受け入れられる環境整備を進める上での住民側の社会的受容性の担保も重要となるため、実証実験を通じて検証を行う。

■実証実験の内容



◎自動運転バスのコスト低減(交差点安全性確保)

信号機のない交差点において、自動運転バスの接近を音や光で周知し、コストとその効果を検証



パトランプによる音や光での周知

◎自動運転バスの社会的受容性醸成

安全性に加え、GPS不良等の対策など、必要な周辺環境整備への理解、社会的受容性の検証



信号機のない交差点

草木の繁茂

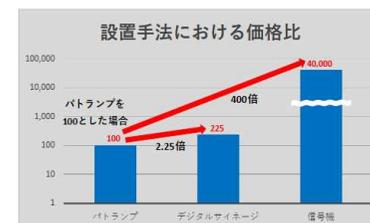
■実証実験で得られた成果・知見

◎自動運転バス接近に対する周知手段の有効性実証

音や光による接近周知について、一定の効果を得られた。一方、交差点の数が多いため、コストダウンのための継続した手法の検討が必要である。

◎自動運転バスへの理解増進と継続的な啓蒙活動の必要性

自動運転バスの社会的受容性醸成に向けては、**試乗会**による安全性を認識してもらう取り組みをはじめ、**周辺環境整備**を含めた、**地域住民との協働**も必須となり、**行政からの積極的な周知活動**が必要である。



コストダウンの必要性



周辺環境整備の必要性

■今後の予定

持続可能な運営に向けては、コスト回収のための具体的な計画策定が必要である。また、社会的受容性醸成においても継続的な周知活動が必須で、これらを並行しながら2023年の実装に向けて事業を推進していく。